

## ■セックスバー輪姦ショー 淫乱バニーエロティナvsショタ50人

セックスバー！そこは言わずと知れたセクハラ公認酒場！  
ドスケベ娘たちが働き、様々な淫らな催しをする最高の酒場である！  
そしてたった今、全ての客が待ち望む一大イベントが行われようとしていた！

【絶倫ショタチンポ共、もといお客様、お待たせしました！  
本日のメインイベントにして当店名物、ドスケベ娘との輪姦ショーを始めたいと思います！】

店主が客を煽り、場のテンションが一気に高揚。  
輪姦ショー……それは店の雇うドスケベ娘を、客が輪姦できるという公開淫乱祭である。  
このセックスバーでは最も人気のあるイベントであり、特に今回のドスケベ娘は店で最も人気があるため、客の期待も相当に高まっている。  
盛り上がりに応え、輪姦ショーを行う娘が呼び出される。

【では早速ドスケベ娘を呼びましょう！ 当店人気ナンバーワン！ 誰もが求める淫乱の権化！  
お色気バニー・マルティナ！】

「はぁーい♥♥ みんな、今日は私に喰われるために来てくれてありがとー♥♥」

現れたのは、歩くだけで揺れる爆乳と爆尻、美しい艶の長いポニーテール、むっちりとした脚にくびれた腰…  
…牝として最上級の素材をバニースーツの中に詰め込んだ極上の美女、マルティナ。  
淫魔と見紛うフェロモンを放ち、登場しただけで何人もの少年たちを前屈みにさせながら店の中央に立つ。

【今日はオレたちが勝たせてもらうからなー！】  
【ボクのチンポで孕んでよマルティナさん！】

抑えられなくなった客が次々と声援や挑発を送る中、店主が輪姦ショーのルールを説明する。

【当店名物、輪姦ショーは一定額までご注文頂いたお客様のみが参加できる特別サービスです！  
参加したお客様はドスケベ娘を輪姦することができます！ もちろん避妊具は必要ありません！ 中出しもぶっかけもやり放題！  
ただし輪姦はバトルファック方式となっており、何かする前に逆にヤラれてしまう可能性がありますのでご注意ください！】

マルティナが登場時に発言した『私に喰われるために』。それは輪姦ショーがバトルファック方式であり、更にマルティナが天性のドSで少年の精気を食うことを至上の悦びとしているがために飛び出た言葉であった。

実際、前回までの輪姦ショーでは全てマルティナが『勝利』しており、種潰けせんとしていたSショタたちを皆返り討ちにしている。

少年たちもそんな彼女の淫乱性と淫技の強さを理解しており、皆が皆、今回こそマルティナを屈服させようと高額商品を注文しまくっていた。

ショー開始前となり、店員が集計。今回の参加者が決定される。

【集計しました……なんと！　今回は50人が参加してくれたぞー！】

いつもは十人から二十人前後だが……マルティナの人気、以前敗北した雪辱のため、等々で参加者が激増。異例の五十人という大輪姦祭となった。

数の暴力でマルティナの子宮を打ち倒さんと奮起する少年たち。それを見て、マルティナも上気した顔で舌舐めずりをして嗜虐心を露わにする。

「やっとハメれるのね♥♥　んもう♥♥　待ちきれなくてオナニーしちゃいそうだったわよ♥♥」

本当に自慰がしたかったのか、その指は股間に添えられていた。身体をくねらせながら手を股間から腰、腹、胸へと滑らせ、魅惑のボディを強調させるとテーブルの上に乗せ、少年たちに見せ付けるように左右の胸を揉み合わせ、蟹股……というより蹲踞になって尻を上下前後に振り回す。

「いつでもOKよ♥♥　オチンポたち、早くいらっしやあい♥♥」

【もうマルティナさんの方も待ち切れない様子ですね！　ではそろそろ……輪姦ショー、開始です！】

合図と同時、少年たちが一斉に群がる。次々とテーブルに昇る中、先頭の少年が真っ先に牝ウサギの爆乳へと飛び付いた。

【一番槍いきます！】

「かもーん♥♥」

挨拶代わりに爆乳を揉むと、少年は勃起を谷間に押し込んだ。

一番槍を務めるだけあり、サイズも硬度も申し分ない。熱とエラの張った形からも、自慢の絶倫であることが伝わるが……

「最初はパイズリね♥♥　じゃ、まずはおっぱいで……いただきまーす♥♥」

ぶるるるんっ♥♥　ドビュルルルッ♥♥

【うっ！　出るうっ！】

「あん♥♥　精液きたあっ♥♥」

絶倫巨根の谷間挿入に対し、マルティナがパイズリで迎え撃つ。

極上の乳肉が柔らかく温かい厚みで挟み潰し、一瞬にしての凄まじい快感を肉剛に押し付ける。これが挿入への見事なカウンターとなり、少年は堪らず射精。

記念すべき最初の射精が胸の谷間で炸裂し、溢れる勢いを唇で受け止めてマルティナは歓喜する。

「もう少し精力上げてきなさい♥♥　さあ次よっ♥♥」

極上の淫技を受け、射精した少年は恍惚の表情で倒れる。その快楽には羨望、一瞬で果てさせるマルティナの圧倒的淫力には恐怖を抱きながら、少年たちは続いて迫っていく。

【なら次はボクのチンポだ！ 早速ハメ】

ずりゅりゅりゅっ♥♥ ドビュウッ♥♥

【うああっ！】

「もう終わりなのお？♥♥ 早くハメてちょうだいよお♥♥」

バニースーツの股間部をズラし、正面から挿入しようとした肉棒を高速素股で返り討ちにする。これも凄まじい威力で、自身満々の少年をあっさりと果てさせる。しかし背後には既に別の少年が迫っており、いくらマルティナといえどこれは避けられない。

【お望み通りいくよっ！】

「いよいよね♥♥ さあ、来なさいっ♥♥」

ずぶぶぶっ♥♥

「あはあああああっ♥♥ オチンポ♥♥ オマンコにオチンポきたああ♥♥」

避けられないのをむしろ愉しみ、ようやくの挿入を歓迎して受け入れる。大きな肉塊が侵入してくる感覚を味わい、悦びに啼くマルティナ。更にその硬さと熱さを吟味しようと肉壺を締めるが、つい加減を誤って高レベルな淫技となってしまう、早々に肉剛が限界に達せられる。

「みんな見てえ♥♥ 今日の初ハメよおっ♥♥」

じゅぶっ♥♥ ドピュウウウウッ♥♥

「ああんっ♥♥ 早すぎよおおっ♥♥」

待ちに待った肉壺への精液。しかしマルティナの淫技のせいとはいえ余りに早い絶頂に、愉しむよりも惜しむ声を出す。

こんなものでは全く足りない。更なる精を求め、左右から近付いた少年のペニスを手に取り、フリーとなった腰を再び前後させて雄を挑発する。

「早くっ♥♥ 次のチンポお♥♥」

挿入を誘いつつ、股間を振ることで素股と尻コキでのカウンターも狙っているマルティナ。そんな彼女に確実に挿入せんと、新たに前に来た少年が腰を掴んで動きを止め、その短い隙に肉剛を打ち込む。

【速攻で3人もイカせるなんて……このドスケベマンコめっ！】

ずぶんっ♥♥

「あはっきたあっ♥♥ そうよお♥♥ お色気全振りのドスケベマンコ♥♥

悔しかったら満足させてみなさいっ♥♥」

本格的なピストンを求めて挿入と同時に自ら腰を振る。今は両手で手コキを続けており、少年には腰を掴まれ、更に他の少年たちが胸を揉み掴むことでも動きを抑制してくるため、腰使いの威力は半減される。だがそれでも雄棒にとっては強烈な快楽を与え、絡み付く動きと締め付けが少年の顔色を曇らせていく。

「感じてるのね♥♥ 坊やのオチンポ♥♥ ドスケベオマンコに搾られちゃうのお?♥♥」

【うう……! だって、ここまで、なんて……っ!】

じゅっぽ♥♥ ドプウウッ♥♥

「んふうんっ♥♥ やっぱ早いわぁ♥♥ でもいい線いってるわよ♥ また次回よろしくね♥♥」

褒めつつも圧倒し、白目を剥くまで搾り取る。更に両手の動きを加速させ、手加減していた手淫の威力を倍化させる。

「オマンコだけじゃなく手コキも味わってね♥♥ ほおら♥ しこ♥しこっ♥♥」

ドピュッ♥♥ ビュルウッ♥♥

「やあんっ♥♥ もっと味わいなさいよお♥♥ もう、射精だけは一人前なんだから♥♥」

威力を上げた途端、少年二人はついていけず即座に達する。しかしそれはマルティナがあまりに魅力的だからであり、少年たちの精力……射精は勢いよく飛び出てマルティナの頬と胸にぶちまけられる。

ビチャッ♥♥ ビチャアッ♥♥

「あっは♥♥ 精液の匂い堪らないわぁ♥♥ ……あら♥♥ 今で興奮しちゃった?♥♥  
あなたたちもぶっかけたいのね♥♥」

手淫射精でぶっかけられたマルティナ。それを見たことで三人の少年が急激に興奮。  
責めようとしていたはずが、今すぐ放精とぶっかけの衝動に駆られ……触れることすら求めず、マルティナを見つめながら必死に自分のモノを扱っている。

「ふふ♥♥ いいわよお♥♥ 我慢できないオチンポ汁♥♥ いっぱいかけなさい♥♥」

ビュルッ♥♥ ドピュッ♥♥ ピュピュウウッ♥♥

「んふうんっ♥♥ 早漏のくせに♥♥ 熱くて臭くて♥♥ 美味しいチンポ汁してるじゃないっ♥♥  
こんなにぶっかけてくれちゃってえ♥♥ こっちも興奮しちゃうわぁ♥♥」

セクシーポーズでサービスした途端、三人は堪えられず同時に射精。大量の精液三人分が降り注ぎ、マルティナの髪と肌を穢していく。

精を浴びたことで更に興奮を増したマルティナ。しかしまだまだその官能には余裕があり……対し、近くにいた一人の少年は、この輪姦祭の異様な淫らさに中てられてしまったか、酷く興奮して呆然としてしまっている。

「あら、童貞クンかしら♥♥ ちょっと刺激が強かったわね……こっちにいらっしやい♥♥」

手招きすると、糸に引かれた人形のように素直に歩み寄ってくる。傍に立たせ、弱々しいながらに勃起したペニスを向けさせると、その先端に柔らかな唇を当てた。

「ん……♥♥」

ピュルッ♥♥ ピュッッ♥♥

「あはっ♥♥ 出た出た♥♥ 初キッス射精かわいいわぁ♥♥ おつかれさま、童貞オチンポくん♥♥」

ペニスで味わう初のキス。それだけの刺激で達し、更にウィンクを見たことで、童貞と思しき少年が恍惚のあまり失神。

これで早くも五十人中の十人が果てたことになる。

「あら、もう10人イッちゃったの？♥♥ こんなペースじゃ私をイカせることすらできないわよお♥♥」

一度も絶頂しないまま射精回数を二桁にする圧倒的淫気。余裕たっぷりに挑発するが、次に迫る少年も笑みを浮かべて言い返す。

【安心してくださいよマルティナさん。ここからは全員『経験者』だからさ……お楽しみはこれからだよ♪】

マルティナに射精した最初の十人。彼らは今回が初参戦だ。ゆえに初めて体験するマルティナの淫気に圧倒されたが……

残る四十人は、全員が輪姦ショーの経験者。新参者に譲りつつ様子見をしていた彼らが、本格的なそろそろ輪姦を行おうとしていた。

「ふふ……そうこなくちゃ♥♥ さあ来なさい♥♥ 先手は譲ってあげる♥♥ オマンコに熱いのブチ込んでえ♥♥」  
ずぶんっ♥♥

「おほっ♥♥ 経験者チンポ♥♥ 一味違うわぁあっ♥♥」

自ら秘部を広げ、受けに回って挿入を促す。やはり輪姦初参戦である童貞同然のモノとは違い、しっかりと肉感を奥まで浸透させてくる。

その快感にマルティナも応えんと、淫らな喘ぎと共に妖しく腰を使っていく。

「おほっ♥♥ あっはあっ♥♥ チンポっ♥♥ もっとおっ♥♥」  
ずぷっ♥ じゅっぽ♥ じゅっぶ♥ じゅぶうっ♥  
「んふっ♥♥ そうよっオマンコ以外ももっと♥♥ 全身チンポで満たしなさいっ♥♥」

同時に他の少年たちが胸や髪を使って自らを扱う。両手首も掴まれて手コキを強制され、一気に相手する雄の数が増加。

それがマルティナの興奮を加速させ、淫技のレベルを上げて輪姦を享受していく。

「経験者チンポっ♥♥ もっと気持ち良くさせなさいっ♥♥」  
ドピュルルルルルッ♥♥  
「おほおっ♥♥ 中出し♥♥ やっぱり熱さが違うわ♥♥ これよこれええっ♥♥」  
ずっぽおっ♥♥  
「あへえっ♥♥ オマンコを休ませない連続ハメっ♥♥ これが輪姦よおっ♥♥」

十一人目の少年が膣内射精して抜いた直後、次の少年が間を置かず挿入。女の都合を無視した一方的な責め。それにさえ歓喜し、更なる責めを促すために両手と胸の少年も射精させる。

ビュルッ♥♥ ビュバァッ♥♥



「チンポ♥♥ 精液い♥♥ もっとよ♥♥ もっとマワしてえっ♥♥」

少年たちも応戦し、射精した者の代わりが即座に補完される。常にペニスで刺激し続け、官能の肉感を与え続ける。

更に二人の少年が近付き、左右からフェラをさせようと頬に肉槍を押し付けてくる。

【本性出したな、このドスケベマンコ！】

【ほら、ボクのも咥えてよマルティナさんっ！】

「んぶっ♥♥ んぷあっ♥♥ 輪姦好きい♥♥ マワされるの大好きなお♥♥」

目に見えて発露されている嗜虐欲と、それに見合う被虐の欲求。どちらも隠すことなく凶悪なまでの淫気に変え、雄欲を一身に受け止める。

ずぼっ♥ ぢゅぶっ♥ ぐちゅるるっ♥

「んっふう♥♥ 口の中も同時に犯してえっ♥♥ んぼっ♥♥ んぶぢゅるるるるうっ♥♥」

両の頬に押し付けられる肉槍を同時に咥える。二本同時に口腔で愛でる輪フェラで唇の周りをベトベトに汚しながらも相手取る肉棒数をまた一つ増やす。

「んぶっ♥♥ んっ♥♥ ふうっ……んふううっ♥♥」

じゅぼっ♥ じゅぼっ♥ じゅぼっ♥ じゅぼっ♥ しゅぶるるっ♥ じゅぽおおっ♥

「あはあっ♥♥ ちんぼっ♥♥ ちんぽ美味しいっ♥♥

がっちがちの絶倫おちんぽ♥♥ しゃぶっちゃうんんん♥♥」

二つのペニスを同時に咥え、一旦離れては片方を思い切り吸い立て、味を比べるようにもう片方にしゃぶり直し、輪姦の恍惚で発奮して思うが儘に二本に頬ずりし、片方を唇で、片方を舌肉で愛でていく。

「はあっ♥♥ びくびくしてる♥♥ やっぱちんぽの味って素敵いっ♥♥」

じゅるっ♥ じゅぼっ♥ じゅぶっ♥ じゅっぽおっ♥

「んふっ♥♥ んっ♥♥ んんうううっ♥♥」

ビュルッ♥♥ ビクンッ♥♥ ゴピュルルルッ♥♥

「んぶうんっ♥♥♥ んっ♥♥♥ んんんんっ♥♥♥ 喉っ♥♥♥ 喉イキいいっ♥♥♥」

夢中にしゃぶりつく内、マルティナのあまりの淫らさもあって舌技に少年が耐えられなくなり、同時に口内と顔面に精液をぶちまける。

だがマルティナはまだ味わい足りないらしく、喉を絶頂させられながらも不満をぶつける。

「ああんっ……精液は美味しいけど早すぎよっ♥♥ だらしないわねえっ♥♥ 次よ次いっ♥♥」

待ち構えていた少年が交代し、その肉棒たちを頬、唇、舌肉で刺激していく。

顔面だけでも容易く雄を果てさせる淫技に、痺れを切らした少年の一人が後ろから迫る。

【喉でもイク肉便器めっ、大人しくヤラれてなよっ！】

動きを止めるのを兼ねてアナルに挿入しようとしているのか、尻を掴み狙いをつける。  
だが簡単に犯させてもつまらない。マルティナは腰を振り、位置をズラして肛姦どころか逆に尻コキで責めていく。

「いいわよっ♥♥ このケツマンコ♥♥ 犯せるものなら犯してみなさいっ♥♥」

ずりゅっ♥ ぶるんっ♥ ずぶりゅっ♥

【あっ、くそ……大人しく……っ！】

ずりゅりゅりゅうっ♥♥

【うあっ！】

ドビュ♥♥ ドブドブドブドブッ♥♥

【こ、こっちも、出る……っ！】

ビュルッ♥♥ ビュビュビュビュウウッ♥♥

「ああんっ♥♥ しっかりしなさいよおっ♥♥」

肛姦の前座のつもりの高速尻コキ。それが少年を追い詰め、バニー尻に暴発させてしまう。  
更に激しい動きで髪コキしていた少年もつられて射精。精熱に包まれるが、またも物足りなさを感じてしまう。

【どんだけドスケベなんだ、ヤバすぎでしょ……っ！】

本領を見せつつあるマルティナの前では、フェラや挿入などで責めている他の少年たちも危うい。  
すぐに竿役を導入し、動きを止めるために更に人員を増やす。

「あはっ♥♥ 本気で拘束しにかかっている♥♥ いいわっ♥♥ もっとちんぽだらけにしてっ♥♥」

少年たちが肛姦のため尻を抱え、両腋にも肉棒を突っ込み、牝の全身を肉棒で擦っていく。雄の匂いと熱がより充満し、一層淫欲に包まれていく。  
煽られるまま、マルティナも誘うように尻肉を振り……

ぶるんっ♥ ぶるうんっ♥

「いいわよっ、このマワされ感っ♥♥ ほらっ♥♥ 早くドスケベケツマンコにぶち込んでみなさいっ♥♥」

ずぼおっ♥♥

「お♥♥♥ ほおおおおおおお♥♥♥」

ついに肛孔にも挿入される。尻を振った勢いのまま激しく挿さり、押し広げられる感覚に絶頂のまま牝声を吐く。

「ケツマンコっ♥♥ キくうううっ♥♥ 二孔スケベ気持ち良ひいいいいっ♥♥」

肉壺と肛孔が同時に犯される快感。輪姦ならではの責めに啼き叫ぶその姿は、本来持つ知性など全く感じさせないものと成り果てている。

体験版はここまでです。続きは製品版で！